

楽しく観光をするには、身軽さとトイレが大事。予約などにデジタル機器が必要なら周囲が手助けを。シニアが快適に旅行をするためのポイントをまとめた。

シニア旅 身軽に楽しむ

手入れの行き届いた美しい庭園に、一年を通じて観光客が訪れる金沢市の兼六園。園内には坂もあるため、管理事務所は平らな道が続く「小立野口」から回るコースを案内している。車椅子も無料で貸し出しており、歩行に不安がある人への配慮がうかがえる。

観光庁は「誰もが気兼ねなく参加できる旅行」を「ユニバーサルツーリズム」として提唱し、観光地、宿泊施設のバリアフリー対応の経費を補助している。旅に出るハードルは下がりつつある。

「行きたい所に行くのが旅行の一番の目的です」とNPO法人「高齢者・障がい者の旅をサポートする会」理事の久保田牧子さんは言う。行き先が決まれば、食事の制約やどれだけ歩けるかといった条件を踏まえて計画を立てる。

「体力的なこと相談して、最終的な目標が決まります」。同会は旅に関するバリアフリー情報提供や、サポート人材の育成などに取り組む。相談を受けた時に久保田さ

両手を自由に トイレも確認

んがまずアドバイスするのは、荷物を自宅からホテルや旅館に送り、帰日も宿から自宅に送ること。持ち運ぶバッグには毎日の薬や身の回りの物を入れ、たすきがけにしたリ背負ったりして両手を自由にする。身軽になり、万一転んだ時の備えにもなる。一緒に旅行する若い人も同じで、両手が自由なら介助などサポートがしやすい。移動の時は



車椅子でも回りやすい平らな道を観光する人たち
＝金沢市の兼六園

高齢者の旅、これで楽しく

- ✓ 行きたい場所を決め、食事やどれだけ歩けるかなどを考えて計画を立てる
- ✓ 荷物は自宅からホテルや旅館に送る。帰日も自宅に送る
- ✓ 両手を自由に。バッグはたすきがけか、背負える物を
- ✓ 動きやすい服、歩きやすい靴で
- ✓ 行く先々のトイレの場所を事前に確認



(久保田牧子さんへの取材から)

デジタル利用、周囲が手助けを

動きやすい服装と歩きやすい靴を。行く先々のトイレの場所を確かめておく準備は特に重要だ。知らない土地でトイレを探すのは大変。地図を見るほか、利用する旅行会社や施設に電話などで聞いてもいい。久保田さんは「トイレがうまくいけば旅行の60％は成功です」。

一方、交通機関や観光施設の予約、利用にインターネット、スマートフォンが必要なケースが増えている。明治安田総合研究所エコノミストの木村彩月さんは、観光庁の旅行・観光消費動向調査を基に、60代以上の旅行者が減少傾向にあると指摘し「デジタル端末の操作に不慣れなシニア世代の旅行消費を阻んでいる可能性がある」と要因を分析している。

そこで「シニア世代が迷わず安心して使える視認性や操作性に優れたデジタルサービスの提供が求められる」と提案。操作に慣れた家族らの手助けで「ポジティブな体験が積み重なれば、デジタル技術を積極的に活用する意欲もより高まる」と話す。行政によるデジタル活用の講習会の広がりにも期待を寄せた。



旅仲間とシニア世代の旅を楽しんだ久保田牧子さん(右端)(高齢者・障がい者の旅をサポートする会提供)